

高倉健 主演 「单騎、千里を走る。」

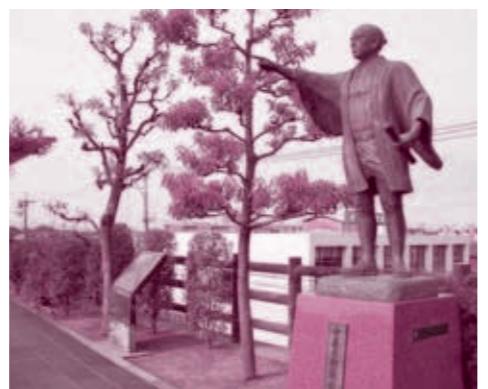


広大な中国の大地に
息子の意志を刻む父親

このシネマ

元始、女性は太陽であった。
いま、女性は月である
——平塚らいちょう

のことでした。1704年、近郊の藩や中甚兵衛らが先頭に立って、連日1万人以上の作業員を動員し、一気に工事をすすめ、わずか7ヶ月で付け替え工事をやり終えました。その費用は今の大和川付替え300年を顕彰した石柱も建てられています。旧大和川の流域は新田として開発され、川中、稻葉、吉田、水走鴻池などの地名にその名残を残しています。中甚兵衛と大和川に関する資料は、堺市博物館、柏原市歴史資料館に展示されています。



柏原市役所の隣に立つ中甚兵衛の銅像。生涯をかけた大和川を見つめています

「单騎、千里を走る。」とは、三国志の英雄・関羽の勇猛・豪傑さにまつわる仮面劇のこと。監督は、世界の三大映画祭で数々の受賞を誇るチヤン・イーモウ、高倉健主演。健サン演じる主人公の高田剛一は、疎遠になっていた民俗学者の息子・健一が、ガンドあとわざかな命だと知ります。息子が仮面劇の研究に情熱を注ぎ、中国の仮面劇『单騎、千里を走る』の撮影がいまだ成し遂げられていました。そして、わざかな手がかりをもとに、はるかなる大地を駆け、思いを伝え、悠

久の人々とふれあいます。高倉健は『ホタル』(2001年)以来の5年ぶり。いつもながら、セリフの少ない健サンの演技。とくに、映画の導入から10分ぐらい、ストーリーの柱となる最重要場面で、携帯電話で息子の嫁(寺島のぶ)との会話が庄巻でした。健サンはひとことも言葉を発しないのに、あたかもお互に語り合っているのかと錯覚します。中国での雲南地方の雄大な景色や風物が見る者を圧倒します。一人の日本人旅行者のために、村をあげて歓待するシーンなど、広野の村落でのふれあいが胸に迫ります。

ザ・見遊じあむ

..... 5

安藤忠雄さん建築による博物館の外観



ミュージアムメモ

▶所在地／〒585-0001大阪府南河内郡河南町大字東山299番地▶入館料(常設展)／大人300円、高・大学生200円、65歳以上200円▶開館時間／10時～17時(入館は16時30分まで)▶休館日／月曜日、年末年始▶交通／近鉄長野線喜志駅下車、金剛バス阪南ネオボーリス行き終点▶問い合わせ／0721-93-8321

隣接している史跡公園「近づ飛鳥風土記の丘」には102基の古墳があり、さながら古墳時代にタイムスリップしたよう。現在40基が整備されて見学ができます。2月は梅がいっぱいの梅の里になります。

近づ飛鳥
博物館

(南河内郡河南町)

大阪の南河内地方の太子町、河南町あたりは、大和の飛鳥に対して「近づ飛鳥」と呼ばれています。古墳のひしめく丘陵地帯に、コンクリートの斜面に長方形の大きな塔。建築家・安藤忠雄氏の設計による建物に驚かされます。4世紀から7世紀の日本は、古墳時代から飛鳥時代にかかるとき。東アジアの国々と交流を深めながら、古代律令国

家への道を進んでいました。「日本の古代国家の形成過程と国際交流を探る」というのが、この博物館のテーマになっています。映像とジオラマとともに、埴輪、装飾品、銅製品、農耕生活用具など貴重な出土品・レプリカが並んでいます。必見は、長さ8・8メートル、重さ3・2トンの古墳時代の木製そり「修羅」です。

14年の歳月をかけて保存処理し展示されています。

圧巻は古墳時代の木製そり「修羅」

大阪の
戦跡を歩く

第4歩

大阪護国神社

(大阪市住之江区)



15万の英靈をまつる「靖国神社」の大阪版

大阪市住之江区。住之江競艇場と道路はさんだ向い側、住吉公園の西南の一角を占めているのが、大阪護国神社です。大阪護国神社の祭神は大阪府出身の戦没者(天皇のために死んだ英靈)15万人あまりです。1938年(昭和13)、日華事変がおこるなかで創建されましたが、戦争の激化で本殿ができ

あがったのは戦後の1960年(昭和35)になってからのこと。境内にある戦没者たちのさまざまな慰靈碑を見ていると、さながら、「靖国神社」の大阪版という感じがします。帝国海軍の戦没者の慰靈碑にはイカリがデザインされていました。戦争に動員された軍馬、軍犬、軍鳩の慰靈碑もあります。

奈良県吉野地方から源を発し、大阪に入つて、柏原、八尾、松原、堺と流れ、大阪湾に注ぐ大和川。しかし、江戸時代の初期まで、この大和川は大阪湾に注ぐのではなく、柏原の国分から北上し、河内地方を通ってその支流は淀川に合流していました。豪雨が発生するたびに、大和川が氾濫し、流域の農民たちは苦しみにあっていました。

河内の今米村の庄屋だった中甚兵衛は、長年にわたるこの状況を憂い、大和川の付け替え工事の嘆願を幕府に行いますが、なかなか聞き届けられません。中甚兵衛の奔走で、ようやく許可がでたのは最初の嘆願から40年もたつてからえいでいました。

いまも心に響く 名詩・名歌・名語録

新しき
明日の来るのを信ずといふ
自分の言葉に嘘はないけれど
——石川啄木

1886年2月20日生まれ。2006年は石川啄木の生誕120年。盛岡市の大通り2丁目、丸藤菓子店前に「北風に立つ少年啄木像」があります。標題の短歌は台座の歌碑にこの短歌があります。大逆事件を契機に社会主義思想にも近づきましたが、肺疾患と窮屈によって、1912年4月13日、友人若山牧水、父、妻に看取られて息を引き取りました。わずか26歳の石川啄木 短い生涯でした。(終焉の地は東京都文京区小石川5-11-7 現在宇津木マンション)

元始、女性は太陽であった。
いま、女性は月である
——平塚らいちょう

2006年は平塚らいちょうの生誕120年。1886(明治19)年2月10日、東京生まれの社会運動家・評論家。女性運動の先駆者として、生涯を女性の地位向上に尽くしました。雑誌「青鞆」発刊に際して「元始、女性は実に太陽であった。真正の人であった。今、女性は月である。他に依って生き、他の光によって輝く、病人のやうな青白い顔の月である」と記しました。本名は奥村明(はる)。多くの証言による映画「平塚らいてうの生涯」(監督:羽田澄子)もあります。